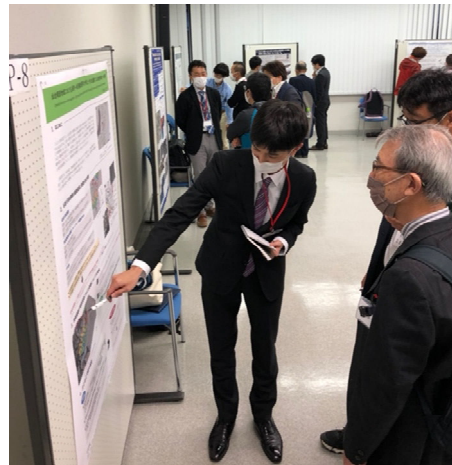


日本活断層学会 2021 年度秋季学術大会開催報告

日本活断層学会 2021 年度秋季学術大会実行委員会

日本活断層学会 2021 年度秋季学術大会が、富山大学黒田講堂にて開催された。前年度は、新型コロナウイルス感染症対策によりオンライン開催であったことから、2年ぶりの現地開催である。10月22日（金）午後と23日（土）午前には、一般研究発表が行われ、会員46名、非会員12名、学生8名が参加した。23日（土）の一般研究発表の後には、論文賞の表彰式が行われた。23日（土）午後には、「北陸の活断層と地震防災」として一般公開のシンポジウムが開催され、96名が参加した。また、24日（日）には、富山県内の活断層を見学する巡検が行われ、会員19名、非会員11名、学生5名が参加した。

一般研究発表では、22日（金）午後に7件の口頭発表、ポスター発表のショートオーラル、16件のポスター発表が行われた。口頭発表では、国内外での研究成果や普及教育に関わる活動などについて紹介された。ポスター発表では、例年に比べて若手の研究者の発表が多く、ポスターの前で活発で熱心な議論が行われた。一般研究発表は、23日（土）午前にも続き、6件の口頭発表が行われた。特に、熊本地震に関連した活断層の調査研究について多く報告された。



左：一般研究発表会（口頭）の様子、右：一般研究発表（ポスター）の様子

23日（土）午前の一般研究発表終了後、論文賞の表彰式が開かれ、宮内崇裕会長から賞状が読み上げられた。論文賞は、活断層研究 51 号に掲載された「新潟県十日町盆地東部段丘面上に見られる背斜状変形とその成因」（白濱吉起）が受賞した。白濱氏は、会場にて参加できなかったことから、オンラインで受賞の気持ちなどを話していただいた。なお、今年度の学会賞は該当なしであった。若手優秀講演賞は、大会終了後に選考され、以下の4名が受賞した（敬称略）。

- 石村大輔「主断層と副断層の活動の同時性：2016 年熊本地震断層上での古地震調査を例にして」（共著者：高橋直也・堤 浩之・遠田晋次）
- 杉本 惇「光学画像相関解析を用いた 2016 年熊本地震に伴う地表地震断層の詳細マッピング」（共著者：高玉秀之・足達健人・渋谷典幸・小俣雅志）
- 塚原柚子「潮間帯化石群体の 14C 年代測定に基づく地殻変動履歴の復元：土佐湾東岸部，羽根岬の事例」（共著者：菅野瑞穂・後藤 翠・藤田奈津子・小松哲也・前杵英明）
- 高橋直也「高密度ボーリングデータから推定される長町ー利府線断層帯の活構造分布」（共著者：遠田晋次）



オンラインを使って行われた論文賞の表彰式

23 日（土）の午後は、シンポジウム「北陸の活断層と地震防災」が一般公開で行われた。本シンポジウムは、日本活断層学会主催、立山黒部ジオパーク協会共催、富山県・富山市・富山県防災士会後援で開催された。周辺海域も含めて北陸の活断層や地震活動に関連する幅広い知見、富山県内での防災に関する活動などが紹介された。会場からは多くの質問があり、活発に意見が交わされた。題目・講演者は以下の 6 件であり、立山黒部ジオパーク協会の専門員である山瀬裕子氏の司会により進められた。

- 石山達也 「北陸の活断層の特徴とその背景」
- 平松良浩 「北陸の地震と石川の活断層」
- 小杉邦夫 「活断層と地域防災」
- 川崎一朗 「小竹貝塚の標高の謎ー地球科学から考古学に架橋する試みー」
- 廣内大助 「福井地震と福井平野の活断層ー福井地震と平野形成の関わりを探るー」
- 竹内 章 「北陸と周辺海域の地震地体構造と応力場の変遷」



シンポジウムの様子

24日（日）には、富山県内の活断層を対象に「山の中コース」と「街の中コース」の2コースで巡検を行った。山の中コースは、富山県立山カルデラ砂防博物館の丹保俊哉氏にご協力をいただき、大会実行委員の竹内章の案内で、有峰付近の跡津川断層の真川露頭と断層変位地形、湖成層、富山県カルデラ砂防博物館を見学した。街の中コースは、大会実行委員の安江健一と立石良の案内で、高岡断層、石動断層、高清水断層、呉羽山断層という富山県中西部の活断層の断層変位地形や関連する地層を観察した。両コースとも良い天気にも恵まれ、1日気持ちよく見学することができた。参加者からは、教科書でしか見ていなかった変動地形を実際に見ることができた、参加者や多くの専門家からも話を聞いてよかった、普段何気なく通っているところでも見方によって違ってみえることがわかった、今後の防災活動につなげていきたいなどの感想があった。



左：巡検（山の中コース）の様子、右：山の中コースの参加者の集合写真



左：巡検（街の中コース）の様子、右：街の中コースの参加者の集合写真

本大会では、一般研究発表、シンポジウムおよび巡検に参加された方で希望者に対して CPD ポイントの認定を行った。CPD ポイントの認定は、実業界や研究機関からの参加者にとって参加の動機の一つであり、今後も継続的な実施が望まれる。

最後に、本大会の開催をご支援頂いた（公財）富山コンベンションビューローと富山市、シンポジウム・巡検を共催して頂いた（一社）立山黒部ジオパーク協会、シンポジウムを後援いただいた富山県・富山市・特定非営利活動法人富山県防災士会、巡検に協力いただいた富山県立山カルデラ砂防博物館・国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所・富山県農林水産部森林政策課・富山県土木部砂防課、シンポジウム講演者の皆様、準備・運営にご尽力頂いた学会事務局および関係委員会の皆様、アルバイトを引き受けて頂いた富山大学の学生の皆様に深く御礼申し上げます。